

なんぶ幸朋苑 見学レポート

見学日時：2016年10月14日(金)

お世話になった方：なんぶ幸朋苑 総合施設長 松本さま

見学参加者：金子, 高瀬

■施設概要

社会福祉法人こうほうえんのなんぶエリアに展開し、施設は通所、訪問、泊まり、入居からケアプランや保育園、地域包括支援センターと多岐にわたる。よなごエリアとは異なり郊外にある為、地域環境が異なる。特に本エリアでは高齢化が進み高齢化率が33%と高い一方で要介護認定率は低いという特徴を持っており、地域で住む在宅の方々を支えるための施設運営が求められており、そのための取り組みで認知症カフェを開催するなどソフト面からの支援も多く行っている。

■運営方針

なんぶエリアでは高齢化率が高いことや国の政策で在宅支援を重視したアプローチを重視した整備を行っている。基本的に日常のイベントや活動には地域の人にも参加してもらうために広く告知を行ったり、自由に出入りしてもらえるような施設づくりを行っている。また、高齢者が持っている資源を流動的に使うため、制度の中で工夫をしながら改修型の施設を開設している。

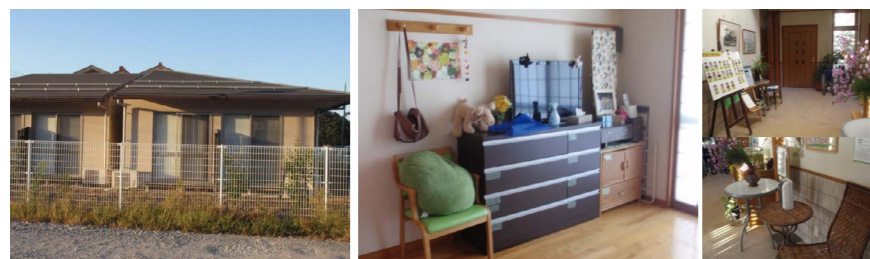
■なんぶ幸朋苑(介護老人福祉施設)

介護老人福祉施設にデイケアや生活支援ハウス、米子市から委託している地域包括支援センターが併設して一体となった運営を行っている。要支援1の方から要介護5の方まで様々な方がいる。また、地域のボランティアの方が気軽に来られるような場所をめざし、四季に合わせた行事などは施設全体で行っている。



■グループホームなるみ

9人のユニットが3つあり、それぞれに玄関が付いている。利用者が外に勝手に出てしまうのは危ないので鍵をかける、という考え方は身体拘束にあたるのではないかとの方針から、見守りの中で鍵をかけないユニットで生活してもらっている。また、建物内はユニットで同じ形がなく、スタッフから見えにくい場所があり、入居者の方の一人になれる場所がいくつもある設計になっており、個々のプライバシーが守られやすい空間になっていると感じた。



■まとめ

これらの施設のほかに、この地域で高齢者の行方不明者が出た場合、放送を流し、地域全体でその方を探す連携体制を整えるなど、ソフト面、ハード面それぞれで地域とのかかわりを強く持つ施設だった。また、複数の施設を併設させた施設が多く、それにより利用者を含め地域の方も自由な関わりを生んでおり、それらが点在することで、更に多様な関わりが生まれている施設だった。

■鳥取ふれあい共生ホーム「共生ホームなるみ」

DSと共生ホームが併設した空家改修型の施設。山間部では特に60%近い空き家があるなど、使える地域資源が多いはずだが、制度的に難しく整備できない部分はまだ多い。その中でこの施設は、地域のボランティアが月2回ほどカフェを行っており、小学生が夏休みに宿題をやり自由に出入りするなど、地域に開かれた施設として広く活用されている。



■ビスターレごせんどく・デイハウスごせんどく

住宅型有料老人ホームと小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている施設。住宅型を使っている方で、そのまま通い施設を使っている人もいるが、元気な方は地域のDSを利用している方もいる。また、日常的に小規模多機能を利用しているひとと入居している人が交流を行っており、イベント時も誘って一緒に行うことが多い。

